

二〇二〇年五月一日(参加者二三名)

窯出でし素焼きの狸陽炎へる  
森なせる陸軍墓地や百千鳥  
園児らのお散歩時間百千鳥  
百千鳥石段登りつめしより  
海に向く砲台の跡かげろへる  
かぎろひの沖にたゆたふ巨船かな  
人け無き奥の院なり百千鳥  
陽炎や荷造り小さく町を出づ  
百千鳥声の一つに聞き覚え  
陽炎や高層マンション傾ぐかに  
子らのぬぬ園の遊具のかげろへる  
百千鳥写経の筆を休めけり  
陽炎ひを肩ゆすりくる路線バス  
ジェット機の陽炎ひながらいま離陸  
陽炎の沖に行き交ふ船の影  
百千鳥鳴いて里山膨らます

宏 虎  
ぼんこ  
菜 々  
満 天  
わかば  
こすもす  
はく子  
なつき  
董 雨  
満 天  
もとこ  
かかし  
よし子  
はく子  
わかば  
菜 々

鐘一打あとの余韻に百千鳥  
人影のありて陽炎ふ歩道橋  
このダムに沈みし村や百千鳥  
住み古りし能勢の山里百千鳥  
かぎろひの野を浮かみくる一輛車  
ダム湖へと溪谷の道百千鳥  
山門を潜るや否や百千鳥  
どの木にも樹名札あり百千鳥  
まほろばにかぎろひ見ゆる御陵かな  
甘檉より明日香一望百千鳥

小 袖  
せいじ  
たか子  
うつき  
菜 々  
よう子  
みづき  
うつき  
明日香  
明日香

WEB句会みのる選・二〇二〇年五月一日